第３学年Ａ組　社会科学習指導案

日　時：１０月２９日（木）
　　１４：００～１４：５０
場　所：３年Ａ組教室
授業者：土師唯我

（１）単元名「地方自治と私たち」

（２）ねらい

片原町のまちづくり協定を手掛かりに、地域の課題は行政だけ、住民だけで解決できるものではなく、異なる立場が関わりながら調整していく必要があることを、資料と議論を通して考えることができる。

（３）本時における社会科で目指す生徒の姿

・片原町が少数の積極的な住民を中心にまちづくりのルールを作った理由に問いを持ち、複数の資料を関連付けて課題を解決することを通して、私たちの生活をよりよくする民主主義社会の在り方について考えを深めることができる姿。

（４）展開（第６時／全７時）

過程	学習活動	研究に関わって
課題設定 社会的な見方・考え方を働かせた考察 認識を深める 自己の学びを振り返る	**○高山市全体で、宿泊施設などが増えていることを確認する** →片原町のまちづくり計画と、高山市との協定について知る。 (発問)町内でこんな協定を作ったということは、片原町の住民はどんな様子だったと思う？ ・賛成している人が多かった。・困ったり心配したりしている人が多かった。 **○「町内会の協定作りに対する町内の雰囲気」を確認する** ・賛成が少ないし、どちらでもない人たちが多いな。これで作る必要があるのかな。 ・協定を結びたいと思っている人が多いわけではなかった。それでも、片原町の町内会は何度も市役所と相談し、協定を結んだ。 ２割の人しか賛成してないのに、どうして片原町はまちづくり協定を結んだのだろう。 **○予想を立てる** ・急いで協定を結ぶ必要があった・反対派の人が納得できるような決まりにした。 **○資料から追究し、全体交流を行う** **【片原町の位置・地域の特徴】** ・片原町にはまだ住民が暮らしている。　・宿泊施設などもあるし、観光客もよく通る。 ・高山市全体のルールでは難しいこともある。 **【反対派の意見】** ・この協定が私たち住民の動きさえも縛ってしまうことにならないか心配。 ・市役所がやってくれるのでは。もしくは、他の町内会と合同でできないか。 **【まちづくり協定の目標】** ・「住みやすく静かな町」 ・伝統と祭りを引き継ぎたい ・「明るい未来を考えていきたい」 ・１００年後も子供の遊ぶ声が聞こえる町 **【協定締結までの道のり】** ・何度も町内で話し合っている。 ・市役所の人に協力してもらっている。 ・住民に向けて説明会を開いている。 **【まちづくり協定の決まり】** ・新規事業者は町内会と合意しなければいけない。 ・景観に配慮した外観にする必要がある。 ・片原町には、昔からの町並みや暮らしを守りたいという思いがあり、観光客だけでなく、そこで暮らす住民の生活も大切にする必要がある。 ・住民としては静かな暮らしを守りたい一方で、地域を維持していくためには、伝統を守ることに加えて、新しく地域に入ってくる人や事業者を受け入れていくことも必要になる。 ・住民だけでなく地域に関わるすべての人の意見を聞けると良いが、それも限界がある。そのため、誰の声をどのように取り入れながら決めていくことが重要である。片原町では、話し合いを繰り返し、市役所の人にも協力してもらいながら、丁寧に進めていた。 ・反対派の人の意見が変わらないかもしれないが、一緒に地域の未来について話し合うことが大切だと思う。 深めの発問（２：６：２の図を見て） 最初、この図を見たとき『賛成２割しかいないのに？』と思ったよね。今はどう見える？ ・関係する人の声を丁寧に聞く必要がある。　・全員一致してから動いたわけではない。 ・意見が違うからこそ話し合うことが大切。　・少数でも動く人の存在が地方自治を進めている。 **○本時の授業で学んだことをまとめる** 視点１「課題解決の視点」 視点２「民主主義的な社会参画の視点」 【視点１】片原町では、観光業が進み、伝統的な町並みや住民が静かに暮らせる生活を守る必要性を感じ、町内の独自性を重視して将来につながるまちづくりをしようと、繰り返し話し合い、合意を図った。一緒に地域の未来を話し合うことが、合意に至るうえで重要だ。 【視点２】地域の課題は、市だけでは分からないことがあり、住民だけでも他の立場の人の意見が十分に考えられない可能性がある。だから、関係する人の声を聞き、違う立場を調整しながら決める必要がある。実際に地域の問題に取り組む人は少ないかもしれないが、より良い生活のために動く人たちの存在が地域の未来を創っているのだと分かった。	**【研究内容１―①】** ・ルールを必要としていた人が多いから作るという前提との差に驚きをもたせることで課題意識をもたせる。 **【研究内容１―③】** ・資料をあえてすべて生徒の手元に配布せず、黒板・電子黒板などに掲示することで、自然な交流を作る。 ・生徒自身に追究方法を選択させることで，学ぶ意欲を高め，個別最適な学びを保障する。 **【研究内容２―②】** ・ノートに課題解決のための資料から抜き出した事実とそこから考えた自分の分析を矢印でわけて書くようにする。事実からの矢印が増えていくことで、思考の深まりを生徒が実感できるようにする。 ・机間指導の際に，ノートに記述してある考えを把握することで、生徒の理解度を把握する。 ・全体交流の際に、生徒の発言で社会的な見方・考え方を働かせていることを捉え、価値付ける。 **【研究内容１―②】** ・事実しか抜き出せていない生徒には，そこからどう分析したのか，「～ということは」を合言葉に深めていけるように、声をかけていく。 **【研究内容１―②】** ・深めの発問をすることで，社会の対立を解決するうえで、行政や住民だけでなく、両者が関わり合って進めていくことが大切だと、民主主義や地方自治についての認識を深める。 **【研究内容２―②】** ・まとめを単元振り返りシートに記述することで、単元を通したつながりを意識しながらまとめる。 **【評価規準】** **思考・判断・表現** ・片原町のまちづくり協定は、住民の静かな生活と観光業や新しい住民を受け入れられるようにして、将来に繋がるまちづくりをしたいという願いによってつくられていることに加え、行政と住民が関わり合って進めていく必要性を記述することができる。 **【評価方法】** ノート記述・発言・行動観察